

## 令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 宝立地区 協議記録

日 時	2025年11月21日（金） 18:00～20:00
場 所	宝立小中学校 体育館

参加者:85名

### 【開会のあいさつ】

多田区長会長：

今日は宝立地区での地区別意見交換会である。公費解体も進み、少しずつ元に戻りつつある。見付地区にある第二次世界大戦で亡くなられた方の慰靈碑が倒れたままになっていたが、先週ようやく元に戻った。大切な碑だったため、良かったと思っている。宝立地区は3地区でまちづくり協議会を進めてきた。中心となるのは道路復旧、避難路であるが、大きな点では復興公営住宅、住まいが一番大事なのかなと優先的に議論してきた。資料を見ると少しずつ進んできていることが分かる。また、鵜飼地区の護岸について、9月に地区の対象の方を中心に話し合っていただいた。大きな部分でインフラ整備が進んでいる。今日の意見交換会で色々な意見を交換しながら、さらに前進するよう、意義あるものとなるよう願っている。

市長：

震災からもう間もなく2年が経とうとしており、公費解体が珠洲市全体で98%近く、宝立町で98.2%完了し、あと29軒ほどである。このまちの景色も大きく変わっている。宝立町においては宝立七夕まつりが復活し、24時間テレビにも取り上げられた。皆さんの復興にかける思いを込めた祭りの復活は胸を打つ出来事だった。皆さんの思いにお応えするためにも復旧、復興を進めていかなければならない。

「新たなまちのかたち」について、これまでご議論を重ねていただいている。本日は地区別プラン策定に向けての意見交換会となるが、これまで復旧にご尽力いただいた、石川県珠洲土木事務所にも来ていただいている。また、道路、河川、橋梁の復旧状況、護岸の整備について説明もさせていただきたい。宝立町は甚大な被害が生じており、災いを転じていくことが重要だと思っている。より安全で快適なまちにいかなければならない。また、復興公営住宅も含め、できるだけ早くプランを固め、前に進めてまいりたい。見付公園の木造型応急仮設住宅は賃貸住宅への転用を図りながら、住まいの提供を進めたい。色々な意見・ご要望を賜りたいため、よろしくお願ひする。

### 【資料説明】

資料1 復旧・復興箇所図

### 【意見交換】

参加者：

今年度から橋梁（港橋、鵜飼大橋）を2つを同時に架け替えるとあるが、同時に実施すると歩行者、車が通れなくなる。現状歩行者が通っている中で、仮橋ができるまでは上流の橋まで行かないと渡れないということか。

珠洲市：

仮橋ができるまでは金峰寺橋を通っていただく必要がある。現状、通行止めとしているが、歩行者だけは通れる状態となっている。ご不便をおかけするが、撤去から迂回路が完成するまでは上流の金峰寺橋をご利用いただきたい。

参加者：

米作りに重要な水を舟橋川から取っているが、工事で泥水は発生しないのか。泥水が発生すると稲作に影響が出てしまう。

石川県：

令和8年度から11年度にかけて破損している舟橋川の復旧を進めていく。その際、一気に泥水が出ることは無い。土のう等で工事箇所をせき止めた上で掘削を進めていく。完全に防げるわけではないが、大量に泥水が出るということはない。

参加者：

意向調査で見付公園の賃貸住宅を希望したが、今住んでいる方がどうやって移転していくのか。希望したところに入れるのか。高齢者が復興公営住宅に優先的に入られた後にうまく入っていくのか。

市長：

切り替え時期が難しい。宝立小中学校の仮設住宅では家賃が発生しないで、見付公園の木造仮設住宅が先に賃貸住宅に切り替わり家賃を徴収するのは公平感に欠ける。現在、復興公営住宅の入居希望が珠洲市全体で700戸前後ある中で、賃貸住宅も含めて、希望される方々が復興公営住宅に入居できるまでは仮設住宅から退去いただくということはしない。切り替え時期は難しいが、すぐに家賃が発生することにはしないように努めたい。復興公営住宅、賃貸住宅への移転がスムーズにいくように取り組んでいきたい。

珠洲市：

見付地区や鵜島地区にある団地は木造仮設住宅を転用した賃貸住宅として計画を進めている。見付地区は135戸、鵜島地区は15戸あるが、そのまま住み続けたいと希望されている方や、空き室を希望されている方のマッチングがスムーズにいくように進める。その入居手続きの制度を検討しており、しばらくすると皆様にお示しできると考えている。

参加者：

第三長寿園から山側へ抜けてくほう（国道249号への道）に道路を作ってほしい。

珠洲市：

これまでの意見交換会で要望いただいた路線である。資料には復旧など優先したいところを載せていくため、今回は記載していないが、地元で要望書を作っていただき、用地交渉など整備の環境が整えば、復旧とは別事業で整備できると考えている。

市長：

昨年度末に皆様からの要望をまとめた方針図・プランには記載があるので、整備できるかどうか対応してきたい。

参加者：

復興公営住宅整備予定地の下のほうに細い道があったが、青色でも示されておらず、道路の標示がない。従来通りに残すのか。あるいは道路はなくなるのか。

珠洲市：

示していただいた箇所は市道としては認定されてない。あかみち（赤道）と言われるかもしれないのを確認するが、復旧の予定はない。

市長：

ただし、復興公営住宅を整備する中で当然行き来できるように計画すると思うので、通行できる形になると思う。

参加者：

復興公営住宅は土地調査中と記載があるが、その後のスケジュール及び完成年度を知りたい。

市長：

できるだけ早く整備できるように進めたい。意向調査結果を早く把握し、場所と戸数を確定し、用地の造成・設計という流れで進めていきたい。

珠洲市：

現在、意向調査を集計中であるが、柏原、春日野、鵜飼地区については多数希望されているため、速やかに建設に進めていきたい。その他南黒丸地区、金峰寺地区に関しても一定数希望される方がいるため、今後も建設に向けて進めていきたい。さらに、柏原、春日野、鵜飼地区については、年明け以降順次設計業務や建設工事に着手し迅速かつ丁寧に進めてまいりたい。

完成時期については、年明けから設計事業者を決めるのに約3ヶ月、設計におよそ8ヶ月、工事に1年2ヶ月程度を要し、スムーズに行けば令和10年3月には入居できると考えている。

参加者：

仮設住宅に入っているが、来年の3月で2年が経ち、延長を希望している。その延長期間は1年であり復興公営住宅の完成に全然間に合わないのではないか。

市長：

先ほど申し上げたとおり、皆様が復興公営住宅に入居されない限り、退去ということにはしない。ただし毎年仮設住宅の延長手続きはあるため、煩わしい思いをさせることになるが理解いただきたい。

珠洲市：

アンケートが毎年11月に発送され、皆さんに翌年、翌々年の意向調査を行うことになる。復興公営住宅をご希望されて仮申し込みされた方だけでも、意向調査は免除できないかと考えているが、国に対

し延長希望戸数の提出が必要になるため難しい。市と県のアンケートで大変ご不便をおかけするが、珠洲市役所の封筒で近々届くので必ず提出いただきたい。

金田副市長：

復興公営住宅については皆様の関心が高いため補足する。年明けから実施設計に入る。そこから完成まで2年かかると捉えていただきたい。一箇所ごとで変わってくるが、早いと令和9年度末完成が一般的なスケジュールになる。見付公園の賃貸住宅の話もあったが、今、入居されている方が空いてこないと新しい方も入れないため、結果的に自主再建や復興公営住宅の建設が進まないと空いてこないということになる。つまり2年後でないと賃貸住宅も空いてこない、そのような流れになっている。

参加者：

現在港橋と鵜飼大橋が通行止めになっており、それらを直すために仮橋を設けるとあるが、完成予定が令和8年7月となっている。そんな簡単に通れるようになるのか。また、鵜飼大橋が復旧したら仮橋は撤去するのか。橋を復旧するために予算をかけて仮橋を設けるのはどうなのか。

市長：

橋を架け替えるために仮橋を設置するかどうかは、交通量や代替する橋の有無によって国が災害復旧事業として認める条件に合うかどうかで決まる。鵜飼大橋については、仮橋を迂回路としてご利用いただき、鵜飼大橋が完成したら仮橋は撤去する。そこも含めて全て災害復旧事業として国の財源で措置していただけます。ただし、橋を撤去した後は迂回路まで遠いのでご不便をおかけする。時間がかかるが安全な新しい橋を架けていくため、ご理解とご協力を願い申し上げます。

参加者：

朝日橋も直すにあたり、工事中は通れるのか。

市長：

朝日橋については仮橋を設置してから、現在の橋の架け替え作業を始めると認識している。

石川県：

通行止めにはしない。まず迂回路を作り、そちらに交通を切り替えてから現在の朝日橋を撤去する。

参加者：

港橋や鵜飼大橋の仮橋の完成が令和8年7月となっているが、半年で完成できるのか。

珠洲市：

現在、仮設道路と仮橋の工事を発注している。工事が落札されれば12月から着手予定となり、予定している令和8年7月には供用可能と考えている。しかし、珠洲市内で多数の工事が同時に発注されており、全ての工事が落札されている状況ではない。仮に入札の不調があると、7月完成がずれ込む可能性がある。

参加者：

仮橋は車両が通行できる幅はあるのか。

珠洲市：

幅は片側3mで二車線ある道路となっている。さらに海側に1.5mの歩道を設ける計画である。

参加者：

仮橋、仮道の用地買収は進んでいるのか。私の所有する用地は、買収エリアに入っていないということでしょうか。

珠洲市：

仮道は用地買収ではなく、用地の借り上げとなる。仮道の設置期間のみお借りする契約で、すでに契約は完了している。ご質問のあった用地については対象外である。

参加者：

前回の説明会でも聞いたが、海岸堤防の高さと河川の護岸の調整は県でされるということによろしいか。また、昨年の豪雨で用水路や排水路があふれて浸水等もあったが、河川や海岸堤防の関係でうまく放流できるような対策はされるのか。

石川県：

河川護岸の高さについては基本原型復旧としており、津波の考慮はしていない状況である。海岸護岸は水産庁で施工されるが、今後、河川護岸の高さと調整を図っていく。また、用排水については、河川護岸のブロック積みの中に排水路が出てくるようにする。護岸復旧と合わせて施工していくため、排水が確保されるように施工していくことになる。

参加者：

海岸のほうにある畑からの排水について、去年の豪雨でも土砂が流れ出たが、海岸堤防を作った場合にうまく排水できるようになるのか。

金田副市長：

当時建設を担当していたが、浜側の道路、市道72号線については、何本か排水路が横断している。横断して海へ出ているため、護岸設置に伴い護岸の中に排水口を設け、水は抜けていくということになる。道路は水平であるが水路勾配は全部ついており、100mに1箇所横断して排水している状態で、今は水路の先が砂で埋まっているが、逆に護岸を作ることで排水しやすくなる可能性もある。いずれにしても横断は何箇所かしており、それがそのまま復旧されると考えている。

参加者：

副市長は家を直して、仮設住宅を出られて現在、家に住んでいる。周りに家が無く、一軒のみの状態になっているが、自分が頑張ってここを復興するんだという想いなのだと思う。皆さん宝立町を愛しているから、どうなるのか気になってこの会に来て話を聞いている。珠洲の広報誌では人口が9,812人とあった。転出や出生を含めて10年後はどのくらいの規模になるのだろうか。私の考えでは今の人口よりも5,000人は減るのではないか。転出する人は多く、転入する人はわずかの状況である。

金田副市長：

数字の予測については誰も担保できない。それよりも住み続けること、住むことで祭りをやる、道路も復旧する、従来やってきた事をしっかりとやつていこうと思っている。副市長の立場ではなく町民として発言しているが、私が戻ったのはそのような想いからである。自分が戻ることで周りが戻ってくれればなお良しと思う。人口何千人を目指そうというのではなく、まず祭りをやりたい、そうすることで子どもたちも帰ってくるし、周りの人も一緒に取り組もうとなる。それが結果的に1,000人、2,000人と繋がつていけばよいと思っている。

参加者：

以前の資料の中で、同じ迂回路の整備や護岸の整備等があるが、見付公園の連続性を活かした公園、お祭り広場の計画はやめたのか。それとも今回は住宅と道路だけのお話ということなのか。

市長：

おっしゃるとおり、本日は復興公営住宅の確認が大きな内容となっている。また、これまでお示しできていなかった道路、河川、橋梁の復旧の見通しをお示ししたいということでお集まりいただいた。復興に向けてのプランを昨年度末までに皆様からお出しeidaitており、進めていきたいと思っている。さらに色々なアイデアを出していただきたい。

多田区長会長：

これまで避難路や護岸を中心にして議論してきたが、今は復興公営住宅を中心にしてやっている。その中で護岸工事をするのに合わせて横に道路があった方が良い、復興公営住宅ができたら、みんなが憩えるような公園もほしい等の話も出てきている。おそらく復興公営住宅がしっかりと決まった段階で、どの辺りに公園を作ればいいのかなどの議論が出てくるため、これまで3つのまちづくり協議会をやっていたが、どこかで統一した宝立町のまちづくり、全体を捉えた話をしていく必要が出てくると思っている。また、金沢大学からの話もあったが、研究拠点の話も少し出てきてるので、色々なことを考えながらまちのデザインや生業など次の段階に進みたいと思っている。

参加者：

復興公営住宅について、南黒丸地区でも進めていくと話があったが、詳しく教えてほしい。

珠洲市：

先行している地区の調査については、年明け以降に設計や建設に向けて進めていきたい。現在集計中の意向調査では、南黒丸や金峰寺地区に関しても一定数の希望があったため、これから建設に向けて調査を進める。

参加者：

復旧時に避難路が確保できないと困るから4m幅にする話を以前してたが、もう決まってるのか。セットバックして道路を拡幅するかもしれないという話はないのか。

珠洲市：

道路については、災害復旧工事で直す箇所と、道が狭いところは部分的に拡幅をして進めていくような予定となっている。拡幅については、拡幅して避難路にする方法と、皆様が家を建てる時に接道する道路幅が狭いところについては、道路の中心線から後退していただくセットバックがある。皆様が家を再建される状況になれば、従来通り建築基準法に従い1軒ずつセットバックをしていきながら徐々に道路の幅は4mとなる。その時に舗装等の議論が出てくる。すぐ実施する避難路と、個々の家の再建によってできる道路と2種類あると思ってもらえると良い。

参加者：

海沿いの津波があった場所は嵩上げ工事等はまだ検討されてないという認識でよいか。

市長：

現状検討していない。海岸堤防でリスクに備える方針である。

参加者：

建設業者が市外、県外から見付地区で工場や宿泊施設のようなものを建てられている。町内会はその業者に町内会費を集めてもいいものなのか。例えば街路灯の電気代等があるが、市の補助は大変ありがたいが、今後40軒が10軒もないような町内になっていくと、電気代の負担が大きい。

市長：

今年度も地区の街灯の電気代はかなり負担が重いと考えているため、補助制度を設けている。またご相談いただきたい。

珠洲市：

電気代は市の総務課で対応しているが、引き続き補助制度が必要だと思っている。1本当たり年間で16,000円の支援をする。補助が適用される地区については、2割以上の世帯が減少したところが対象であるが、珠洲市全域で該当すると思われる。手続きに関しては総務課で対応させていただく。

市長

建設関係の事業所の宿舎を町内会に取り込むかどうかについて、珠洲市として方針を出すのは難しいが、地元と企業でお話をされるのが良いと考えている。宿舎に入ってる方に町内会に加入してくださいというよりも、宿舎を整備した業者に協力をいただけるように交渉なさっていただければよい。珠洲市として働きかけるのは難しいような気がする。

参加者：

おそらく大量に入居されて、ごみの処理等を一体どうしていくのかという悩みもあるし、ごみステーションを解体した町内では対応できないなど、色々な問題が出てくると思う。

市長：

トラブルやお困りごとが生じたら、ご相談いただきたい。ごみステーションの対応はできる限りさせていただく。町内会に取り込むかどうかは交渉いただければと思う。

これだけ更地が広がってきて、景観の問題が出てきている。どんどん雑草も伸びてくる。本来であれ

ば土地の所有者が刈り取らないといけないが、対応策を行政としても考えている。今のところ、例えば地区ごとに更地になったところが何件あるか、戸数ではなく何箇所あるかを出していただいて、年2回箇所数に応じて何千円という形で、環境整備としての補助金、助成金を町内会にお渡しする対策を検討しているが、皆様どう思われるか。

参加者：

町内会から草刈りしてくれる方がいらっしゃったので、海側の河川沿いはやってもらったが、個人のところは個人でやっているというのが現状だと思う。

市長：

1箇所あたり2,000円でしていただけるものか。50箇所あれば10万円、年2回草刈りすれば20万円である。公費解体は住宅だけでも5,800世帯中2,800軒あり、2軒に1軒が更地となっている。空き家も含めて8,500軒であるが、申請件数は5,500軒であるため、5,500箇所とすれば2,000円で1回あたり1,100万円、年2回で2,200万円となる。これを綺麗な町並みに戻るまで続けようと思うと、その2,200万円が珠洲市の財政として妥当かどうか。各地区の皆様のご意見もいただきながら、来年度に向けて制度を設けることができないか考えていきたい。

参加者：

ニュースでは穴水町で大手建築会社が入り、工事を進めているように聞いたが、珠洲市はまだそういう段階ではないのか、計画はあるのか。建築会社が建て、市が買い上げる予定はあるのか。

市長：

皆様のご自宅の再建も業者の手が回らない状況だと思う。今注文しても2年ほど待ったり、あるいは一旦受付を止めているハウスメーカーもある。そういうハウスメーカーも手が回らないという状態の中で、復興公営住宅を整備していくのは大変なことになる。

珠洲市：

当市でも大手のハウスメーカーの買い取りを予定している。先ほどから申し上げているように、年明け以降に順次、手続きや事業者の募集を行い、設計等を進めたい。

市長：

大手建築会社に建ててもらい、それを買い取るという形で迅速化を図りたい。また、石川県復興公営住宅建設推進協議会にお願いするなど、色々な方法でできるだけ早く建てられるようにしていきたい。

市長：

長時間、皆様方からご要望やご意見をいただいた。震災から2年が経過しようとしているが、これから特に皆様の安定した住まいの提供、復興公営住宅の整備を進めていきたい。できるだけ早く整備し、入居いただけるように頑張って取り組んでいきたい。また、復旧についてもできるだけ早く進めてまいりたい。あとはどのように宝立町の魅力を取り戻していくかが大事だと思う。少し状況が変わっており、見付公園に行くとバスが停まっていて、ポケモンのフォトスポットなどもあり、皆様立ち寄られている。それをどう経済に繋げていくか、経済を回していくかなどを考えながら、この宝立町の魅力も

取り戻していきたいと思っている。皆様と共に、より魅力ある最先端の復興、宝立町の再生に取り組んでいくので、今後ともよろしくお願ひする。

以上